大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

MIZUKI

医療連携室ニュース「みずき」

〔volume〕
24
2014 WINTER

contents

年頭のご挨拶
中央放射線部に新しいリニアック装置が導入されました
「痙縮（けいしゅく）」に対するボツリヌス毒素療法
ダヴィンチ・ロボット支援手術の導入と前立腺摘除術における私たちの工夫
「連携医療機関登録制度」のご案内
電子カルテの導入と予約対象患者さまの変更について
JR高槻駅無料送迎バス試験運用のお知らせ
編集後記

年頭のご挨拶

広域医療連携センター
センター長
黒岩 敏彦

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに佳き新年を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

一昨年立ち上げました広域医療連携センターの活動は軌道に乗り、昨年は「連携の集い」などの催しを通して皆様との連携を更に深めることができました。本年も引き続き、連携施設から本院に、本院から連携施設に、と垣根なくスムーズに患者さまを受け渡しできますように活動を強めて参ります。昨年6月から医療連携室の受付時間を平日は20時まで延長し、医療機関さまからの受診申し込みに速やかなお返事ができる体制を整えました。また昨年開設いたしましたがんセンターも順調に機能していますのでご期待ください。

今年は、1月から電子カルテを導入いたしました。これによって患者さまの情報管理を徹底して行い、連携施設との繋がりをより密にしたいと考えております。さらに、手術室・ICU・病棟からなる新中央手術棟も今年着工する予定です。

特定機能病院、災害拠点病院、がん診療連携拠点病院など多くの指定を有する施設として、高度な技術を駆使して多岐に渡る先進医療を推進する施設として、今後とも成長を続けていく所存でございます。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

中央放射線部に新しいリニアック装置が導入されました

中央放射線部　部長
鳴海 善文

放射線治療は、手術、化学療法と並び、がん集学的治療法の重要な柱の1つです。特に近年はピンポイント照射と呼ばれている定位放射線治療や、強度変調放射線治療（IMRT）といった高精度放射線治療技術を用いることにより、正常組織を避けながら安全に放射線治療を行うことが可能となりました。前立腺癌、食道癌をはじめ、良好な生活予後を維持しながら高い治療成績を得られる症例も増加しています。

本院において放射線治療装置が更新となり、新しい高精度放射線治療装置が導入され昨年10月より稼働しています。本装置は上記の高精度放射線治療である、定位放射線治療やIMRTを行う性能を有しており、装置付属の画像誘導放射線治療（IGRT）システムという位置照合機能と併用することにより、さらに高精度の治療を実現することが可能となります。

また、本装置では回転しながらIMRTを行うことができ、従来のIMRTと比較して短い治療時間で、より腫瘍形状に一致した照射を行うことが可能です。

今後ともより安全で高精度な放射線治療を提供するため、放射線治療チーム一丸となって取り組んでいきたいと考えます。

「痙縮（けいしゅく）」に対するボツリヌス毒素療法

リハビリテーション科
科長
佐浦 隆一

痙縮（けいしゅく）とは

運動麻痺には、末梢神経の障がいによる「力を入れることができない」弛緩性麻痺と、中枢神経（脳・脊髄）の障がいによる「力を抜くことができない」痙性麻痺（痙縮）があります。脳卒中の患者さまで肘・手指が曲がったまま、足関節が伸びたままの状態が痙縮です。麻痺以外に痛みや不良姿勢、食事や更衣、清拭（清潔を保つ）などの介護がしづらくなるという問題点があります。

治療法の内容

食中毒の原因菌のボツリヌス菌が作るボツリヌス毒素（神経毒）を、緩めたい筋に直接注射します。ボツリヌス毒素にはA型（ボトックス®）とB型（ナーブロック®）がありますが、A型が上肢・下肢痙縮に使えます。効果は1週間程度で現れ、3ヶ月程度続きます。定期的に続ける必要があり、装具療法やリハビリテーションを併用します。

期待できる治療効果

筋が緩むと痛みが和らぎ、手足が動かし易くなります。また、更衣や清拭などの介護が楽になります。しかし、麻痺を回復させる治療ではないので、上肢装具・スプリントや麻痺のない側の手を使って、麻痺側の肩・肘・手を伸ばす運動を行います。また、筋電気刺激装置を併用した作業療法や、下肢装具を装着しての歩行練習も有効です。

ダヴィンチ・ロボット支援手術の導入と前立腺摘除術における私たちの工夫

腎泌尿器外科　科長
東 治人

いよいよ本院にもダヴィンチ・ロボット支援手術システムが導入されました。ロボット支援手術とは、人間の手と同じ動きをする機械アームをお腹に開けた小さい穴を通して挿入し、操作パネルを通してアームを動かす遠隔操作システムです。ロボットの操作アームは、人間の手の動きを忠実に遂行できるので、より確実な手術操作が可能です。また腹腔内に搭載された3次元カメラによって、実物の10倍の拡大視野で手術を行うことができるため、出血、術中直腸損傷、そして勃起障害や尿失禁など、術後のQOLに大きな影響を及ぼす合併症の軽減に、極めて効果的です。

本院では、これまで年間90例を超える腹腔鏡前立腺全摘術（全国でも上位10施設以内の症例数）が行われてきました。私たちは、この豊富な症例数と経験を生かして、術中直腸損傷、あるいは、術後尿失禁や、勃起障害といった合併症の軽減に取り組んでいます。例えば、術中リアルタイム経直腸超音波ガイド下手術による「大阪医大式尿失禁防止術式」（下記紹介）の開発はその一つです。

● 大阪医大式尿失禁防止術式

私たちは、術後尿失禁を改善するため **①括約筋の温存（前立腺を摘除する際、膀胱や尿道との境界部を超音波で明瞭に把握し、尿道括約筋や膀胱の出口をできる限り温存する）、②神経温存術（超音波ドップラーという機能を用いて括約筋や陰茎を支配する神経と血管を手術中リアルタイムに把握しこれらを温存する；下記に記載）、③骨盤内臓器の位置矯正（前立腺を摘除した後、膀胱と尿道のつなぎ目の角度や位置をできる限り手術前の位置に矯正する）**を主題として構成した「術後尿失禁改善手技7項目」を、術中リアルタイム超音波ガイドダヴィンチシステムにシンクロナイズさせた、術中画像ガイド下手術を精巧に実施することによって、術後尿失禁の改善に努め、術後の尿失禁は著明に軽減しました。

前立腺がんは、患者さまが高齢であること、またがんの進行がさほど早くないことなどから、治療には極めて多くの選択肢がありますが、一人の患者さまが受ける治療は一つです。本院では、泌尿器科腫瘍専門医、放射線科医、そして、病理医といった、それぞれのエキスパートが緊密なネットワークを組んで、前立腺がん治療センターを構成し、患者さまのがんの状態、年齢、体力、などを含めたすべての状況を判断し、極めて多くの選択肢の中から最適の治療を提供しています（全ての治療を備えたフルラインアップから最適治療を選択）。診療を希望される患者さまがいらっしゃいましたら、本院の医療連携室を通して、前立腺がん治療センターにご紹介頂ければ幸甚です。

「連携医療機関登録制度」のご案内

地域の医療機関と本院が相互に協力し、地域医療の充実と発展を図り、患者さまに医療連携を明示しつつ、良質な医療とサービスを提供することを目的として、昨年10月より連携医療機関登録制度の運用を始めました。制度へのご登録をお待ちしています。

登録制度の内容

1．「連携証」と「連携プレート」のご提供
2．本院玄関に「連携医療機関」として貴院名を掲示
　※本院相談窓口コーナーにおいても「連携医療機関」をご紹介いたします
3．本院ホームページにて貴院のご紹介
　※貴院のホームページをリンクさせることも可能です
4．逆紹介促進のため、電子カルテシステムの中で貴院の診療内容公開

その他本院施設の使用にあたり優待がございます

○ お問い合わせ・登録お申し込みは広域医療連携センターまで

「紹介医療機関と大阪医科大学附属病院との連携強化の集い」の開催報告

広域医療連携センター設立１周年企画として、8月29日（木）と9月21日（土）、たかつき京都ホテルにて開催し、2回あわせて295名の参加をいただきました。

連携医療機関登録制度のほか、がんセンターと本院救急医療部の新体制についてご説明しました。お忙しい中ご出席いただいた皆様に、心からお礼申し上げます。

◎医療連携室からのお知らせ

電子カルテの導入と予約対象患者さまの変更について

平成26年1月より、本院では電子カルテを導入いたしました。これにより今まで以上に各診療科間の情報共有を行い、スムーズな診療ができるようになりました。

またこれに伴い、医療連携室で予約をお取りする患者さまの対象が一部変更になります。

昨年までは、有効なカルテをお持ちの方（3年以内に受診したことのある方）はほとんどの診療科で外来等にお電話をいただき再診予約をお取りしておりましたが、今年1月からは「受診希望科を半年以上受診されていない方」は初診の患者さまとして医療連携室でご予約をお取りいたします。ただし、最終受診の際に「1年後に再検査を」などの医師の指示がある場合は、今までどおり、患者さまからのお電話により再診予約を取ることができます。

JR高槻駅無料送迎バス試験運用のお知らせ

本院とＪＲ高槻駅間を結ぶシャトルバスの運用を試験的に開始しました。ぜひ患者さまにご案内ください。

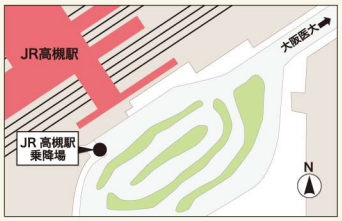
- 平成26年3月31日までの試行運転
- 月曜日～金曜日
  （土曜日・日曜日・祝日及び振替休日は運休）
- 病院の乗り場は７号館北側ロータリー付近です

※付き添いの方、お見舞いの方もご乗車できます

※本院ご利用目的以外の乗車はご遠慮ください

	JR高槻駅発	大阪医大発		JR高槻駅発	大阪医大発
1便目	9:00	9:15	9便目		12:35
2便目	9:20	9:35	10便目	12:40	12:55
3便目	9:40	9:55	11便目	13:00	13:15
4便目	10:00	10:15	12便目	13:20	13:35
5便目	10:20	10:35	13便目	13:40	13:55
6便目	10:40	10:55	14便目	14:00	14:15
7便目	11:00	11:15	15便目	14:20	14:35
8便目	11:20				

JR高槻駅南側ロータリー3番乗場



編集後記

「4時間」というゼッケンを付けたペースランナーがいよいよ後ろから迫ってきた。
これはやばい、抜かされる・・・いや、このランナーには“絶対に”ついていく。
私は、3回目のマラソン大会でサブフォー（4時間切り）を目指して参加していた。
しかし、走り出して3時間、エネルギーは枯渇して、息は苦しく、極度の疲労感。
やめることもできる。諦めることもできる。
それでもなんとかペースランナーと並走する。
苦しまぎれに叫んだ。「ペースが早すぎます。もう限界です。」
そこに思いがけない返事が返ってくる。
「頑張ってください。自分の限界は自分で作っています！」
瞬間、全身に電流が走り、心が震えた。得体の知れない力が沸き、ゴールへと運んでくれた。
そのとおりだった。
自分が作った目標に手が届きそうな時、いつも苦しさに負けていた。
逃げていた自分と決別し、もうひとつのゴールを手に入れた気がした。
マラソンという趣味で手に入れたもの、それは少しの健康管理としがみつく心の持久力だった。（M.M）

医療連携室ご利用のご案内

■ 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平　日／8:30～20:00
土曜日／8:30～12:00
※第2･第4土曜日は休診です。
※FAX受付は24時間可能（休診時も含む）。
但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

■ 送信先

FAX.072-684-6339
大阪医科大学附属病院　広域医療連携センター医療連携室
〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7
TEL.072-683-1221（大代表）内線2308
TEL.072-684-6338（医療連携室直通）

● 本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。お手数ですがご利用の場合は、電話又はFAXにてご請求ください ●